

[成果情報名] ブドウ「クイーンニーナ」の雨よけハウス栽培における収穫適期と選果の判定指標

[要約] 伊賀地域における「クイーンニーナ」の雨よけハウス栽培では、満開時のジベレリン処理後 90 日で果汁成分の出荷基準を満たす。しかし、一部に完全着色に達しない果房も含まれるためカラーチャートによる外観評価と併用した収穫・選果が必要になる。

[キーワード] クイーンニーナ、満開時ジベレリン処理後日数、カラーチャート

[担当] 三重県農業研究所 伊賀農業研究室

[分類] 研究

[背景・ねらい]

高品質な赤色大粒系品種「クイーンニーナ」は、市場や消費者から評価が非常に高く、伊賀地域にも無核栽培での導入を進めている。「クイーンニーナ」は既存の赤色大粒系品種「安芸クイーン」より収穫期が遅いが、早期から着色良好な果房が発生することから、果実内成分を含めた収穫適期の判定指標が必要である。そこで、伊賀地域における収穫期間の果汁成分の変化および着色と糖度の関係を明らかにし、満開時のジベレリン処理後日数と既存の「安芸クイーン」カラーチャートを用いた「クイーンニーナ」の収穫適期及び選果の判定指標を示す。

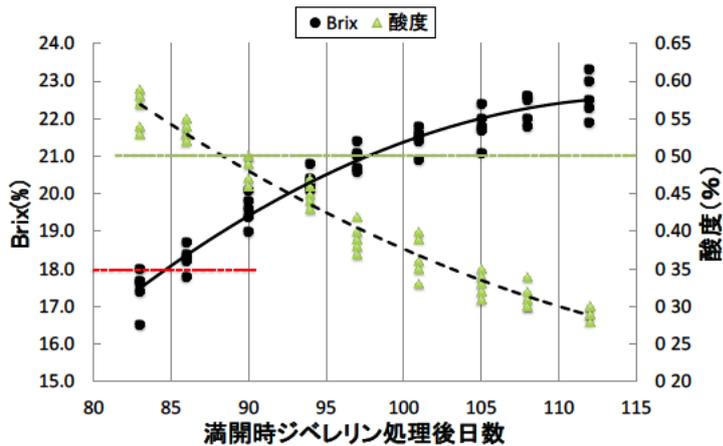
[成果の内容・特徴]

1. 伊賀地域における「クイーンニーナ」の出荷基準は、果汁成分では糖度 18 Brix% 以上、酸度 0.5% 未満である。満開時のジベレリン処理後日数が 90 日を超えて収穫した果房は糖度 18 Brix% 以上、酸度 0.5% 未満となり果汁成分の出荷基準を満たす（図 1）。
2. 満開時ジベレリン処理後日数が 90 日未満で収穫すると「安芸クイーン」専用果実カラーチャートで 3 以上の果粒割合が 80% 以上の着色良好な果房であっても果汁成分の酸度が 0.5% 出荷基準を満たさない。「クイーンニーナ」ではジベレリン処理後 90 日に達する前は果汁成分の変化が大きいため、樹体内で満開日がばらつく場合は花穂毎のジベレリン処理日を正確に把握し、果房毎に収穫日を確認する必要がある（図 1, 2, 3）。
3. 満開時ジベレリン処理後日数が 90 日以上果房でも、「安芸クイーン」専用果実カラーチャートで 3 以上の果粒割合は 75~99% の幅がある。「クイーンニーナ」を赤色大粒系の高級品種として市場出荷を目指すためには、満開時ジベレリン処理後 90 日を過ぎた果房であってもカラーチャートを用いて着色程度を確認して収穫するか、もしくは収穫後の選果が必要になる（図 2、3）。

[成果の活用面・留意点]

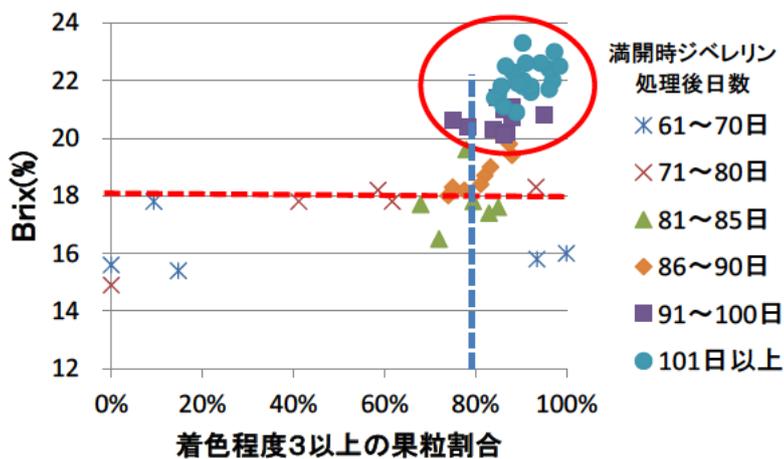
1. 本成果は雨よけハウス栽培条件下（被覆期間：2017 年度 4/5~7/25、2018 年度 3/26~7/12）でのデータに基づく。
2. 収穫時における果房の着色程度の把握には窓空き果実袋の利用、もしくは収穫前の最終薬剤散布後に果実袋を除去し果実傘を使用、がある。
3. 本基準は果房重が 500~600 g 程度の果実で作成した。この範囲から大きく外れる小房や大房には適合しない場合が想定される。

[具体的データ]



- ・ 供試樹：H字整枝、短梢剪定、7年生
- ・ ジベレリン処理：5/29、6/1、6/5に満開に達した花穂に処理
- ・ 果実調査：8/20、8/31、9/11
(以下、図2も同じ)
- ・ 各ドットは果房毎のデータを示す。
- ・ 果汁成分の測定は1果房あたり10果粒を搾汁し、糖度と酸度を測定。

図1 満開時ジベレリン処理後日数と果実糖度(Brix)と酸度との関係 (2018年度)



- ・ 着色程度の評価には「安芸クイーン」専用果実カラーチャートを使用
- ・ データ年次
満開後 61～80日 2017年度
満開後 81日以降 2018年度
<年次別栽培条件>
2017年度
- ・ 供試樹：二本主枝、中梢剪定、10年生
- ・ ジベレリン処理：6/1、6/5の2回に分けて処理をし、その中間の6/3を満開期とした
- ・ 果実調査：8/4、8/10、8/17
2018年度 図1に同じ

図2 満開時ジベレリン処理後日数と果房中の着色程度3以上の果粒割合および糖度(Brix)との関係 (2017、2018年度)

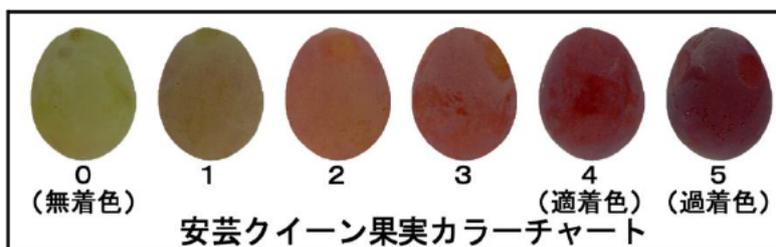


図3 「安芸クイーン」専用果実カラーチャート (実物の背景は黒色) (近藤宏哉)

[その他]

研究課題名：ブドウ新品種「クイーンニーナ」の無核栽培における収穫適期判定基準の開発

予算区分：共同研究

研究期間：2017～2018年度

研究担当者：近藤宏哉